

文部大臣奨励賞

「祖母の姿から」

静岡県・静岡市立末広中学校一年 宮内香奈



●授賞式にて

「お婆ちゃんも、連れて行つて出かけることになった。」

そして、今年の夏休み、姉達と母とで久しぶりに家族旅行にしなければならない。

時々、はっとすることがあつても、どこかでそれを認めたくないという気持ちがあつたのかも知れない。

不安はあつた。祖母は、もう紙おむつ無しの生活はできなくなつていたのである。しかし、日頃何もしないで居る私に、祖母の喜ぶ顔が目に見え、話が始まる。

「お婆ちゃんの好きな温泉がいよ。」

「お婆ちゃん、連れて行つて出かけることになった。」

「お婆ちゃん、連れて行つて出かけることになった。」

「お婆ちゃん、連れて行つて出かけることになった。」

「お婆ちゃん、連れて行つて出かけることになった。」

「お婆ちゃん、連れて行つて出かけることになった。」

「お婆ちゃん、連れて行つて出かけることになった。」

「お婆ちゃん、連れて行つて出かけることになった。」

「お婆ちゃん、連れて行つて出かけることになった。」

「お婆ちゃん、連れて行つて出かけることになった。」

「お婆ちゃん、連れて行つて出かけることになった。」

「お婆ちゃん、連れて行つて出かけることになった。」

「お婆ちゃん、連れて行つて出かけることになった。」

馬車から降りると上り坂。暑い上に、祖母の歩みが遅い。強い日差しの下でのろのろ歩くのは却つてつらい。時々待ちきれなくて、走り出す。誰かが祖母の歩みに合わせて残る。勢いよく走つても、何となく悪かったかなと、立ち止まって待つ。走る人が、順に変わる。みんな気持ちと同じだった。だが祖母は、「上りを歩くのは嫌だねえ。バスにすれば。」

と、平気で文句を言つた。せつなく祖母を喜ばせようとしての計画だったのに。しかもトイレの心配をしなくてはならない。

「お婆ちゃん、濡れてない？」
「大丈夫だよ。」
でも、大抵濡れている。何度か聞くと、

「なんでそんなことばっかり言うの！」
と強い口調で口答えをすることもある。放っておくとびしょ濡れになってしまうのに。

「もう、いいよ。好きにして。」

時々母も強く言い放つ。そして顔を曇らせる。

いくら祖母のためと思つても分かつてくれない。つい、腹が立つ。そして、後悔。自分が冷たい人間のように情けなくなると、その繰り返しだ。何故こんなふうになつてしまったのか。

以前の祖母に戻ることはできないのか。

予定では、他も回るつもりだったが、時間がかり、ホテルに向かった。温泉が素晴らしかった。脱衣所では、私達は祖母が紙おむつをしていることを隠そうとするのに、祖母自身は、少しも構おうとしない。おむつをしていることすら自覚がないらしい。それでも

「本当に気持ちがいいねえ。」

と、温泉につかつて笑っている祖母を見ると、それだけで来て良かったと思えた。夕食も、豪華だった。でも、祖母は喉に詰まらせて、少し吐いた。みんながゆっくり噛むように注意しても聞かない。妙なところで頑固になる。ベッドにもぐつても寝付けなかった。目を閉じると、小さかった頃のことが浮かんだ。

一年生になったばかりの私が小学校から帰り、玄関に立つと、祖母はすぐにドアを開けてくれた。その頃はそれが不思議で、またとても嬉しかった。今思うと、いつも私の足音に耳を傾け、ずっと待っていてくれたに違いない。祖母は優しく、常に私の味方だった。

祖母の寝息が聞こえた。胸に悲しみが込み上げた。

旅行が終わればしばらくして、祖母は

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」



授賞式では、聞いている人の胸にじんときくるような心のこもった朗読をしてくださいました

と、言った。全てが忘れ去られてしまふのだろうか。だが、祖母の心から私が忘れ去られることだけはないと信じている。

たった二泊の旅だったのに、あんなに私を可愛がつくれた祖母を瞬間的にでも疎ましく思つてしまふ自分が醜く思えた。それでも、私達は四人でその気持ちを分け合うことができた。もし、これが毎日の生活で、全て一人で解決しなければいけないとしたら……。

看護に悩む人の気持ちに少し近付いたような気がする。両親や祖父母を大切にしたい。こんな気持ちにはみんな同じだろう。ただ看護する人も生身の人間で、悩みも苦しみもある。それを皆で分け合うことを私は考えなければいけないのだと思う。

痴呆症の進んだ祖母との温泉旅行を通して感じた家族のときどき、いらだちを素直に書き表しています。胸に込み上げてくる祖母への思いを自分なりに整理して、看護に悩む人の気持ちへと思いをめぐらしています。短い文を連ねることで、力強い文章となつていきます

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

「もうすぐ香奈ちゃん達と温泉に行くんだね。」

中央出版株式会社 社長賞

「わたしのかわいいやさいたち」

東京都・千代田区立お茶の水小学校二年 青木玲音

四月のおわりに、生かつかのじゅぎょうで、ピーマンとプチトマトのなえを、うえました。まぶしいたいようのひかりをあびて、やさしいちは、ますます元氣になり、水分もたつぷりとり、

ピーマンの、みは、小さい時から、すがた形、色までも、ほとんどかわりなく自分のみは、自分でまもる！ というような、しっかりとしたかたそうな体をしています。つやつやと、力強い

今回は、低学年に心動がされ

くります。ほとんどのせいちようです。

プチトマトは、王かんのよう

な「びん」に立つた、へたをもつ

て、うすきみどりからだんだん

と、しゅ色へ。そしてたいよう

を思わせるもえるような、まっ

かなみとなり、五十六こ、家ぞく

のようなひとかたまりの、なか

よしグルーブで、むっとするよ

うなあついかおりが強いです。

な、強いみどりのかおりです。

おみせで、かつてきただけの

やさいでは、わからないことば

かりです。わたしの、かわいい

やさいたち！ おしえてくれて

ありがとう！

※ピーマンとプチトマトが、ぐん

ぐん大きくなっていく様子が、

目にかぶようです

その一方、高学年ではデーマ

今回は、低学年に心動かされる作品が多く見られました。

旅行や家族の病氣、行事に参加したことなどの特別なできごとばかりではなく、毎日の生活の中から身近な題材を取り上げて書いた作品も見受けられ、全体的に題材の幅が広がったように思います。

どきどきするような発見を、素直に書き表した文章の中に、きらりと光る作品がありました。

その一方、高学年ではテーマが大きくなる反面、文章の深まりがないように感じられました。

友人や先生とのかわわり、学校生活を通して感じたことなど、学校生活を通して感じたことなど、もっともつと自分を見つめてほしいと思います。

じつくりと内容を深め、文章をしっかりと練って書くことよいでしょう。

読み手に感動が伝わってくる作品を期待します。

鹿児島県・加世田市立万世中学校3年 辻 里子
※祖母の死を通して自分の生き方を見つめています。
原稿用紙5枚を有効に使うとよりよくなります

みなさんは 作文を書いたあとで読み直していますか。字のまちがいや段落はじめの一字下げなどを確かめていますか。いちばん言いたいことが、しっかり書けていますか。見直すことで、もっとすばらしい作品になるはすです。

子どもの文化・教育研究所の先生方

理事長 玉川大学客員教授	国語学者	金田一春彦	東京大学名誉教授 広島県立羅町立立世羅中学校校長 元東京都杉並区立高井戸小学校校長
顧問審査員 元東京都文京区立湯島小学校校長 元横浜市立藤の木小学校校長 東京理科大学講師		内田早苗 大村一美 武村重和 寺師信之	理科 宇都宮大学教授 東京都渋谷区立猿楽小学校校長 東京大学名誉教授 東京学芸大学教育学部附属 小倉井小学校教頭
京都府立小栗栖小学校校長 京都大学名誉教授 元総長 元東京都杉並区立杉並第一小学校校長 元京都市立錦林小学校校長		林健太郎 増田和彦 吉見昭一	生活科 國學院大学栃木短期大学助教教授 東京都杉並区立和田小学校校長
作文 児童文学作家 元琉球大学教授 京都女子大学教授 愛知教育大学助教教授 大阪教育大学名誉教授 元福岡県岡垣町立岡垣東中学校校長 広島大学名誉教授 鳴門教育大学名誉教授		漆原智良 太田昭臣 岡田純也 佐藤洋一 中西一弘 野上眞行 野地潤家	英語 宮崎大学教授 文化女子大学講師 近畿大学教授 岐阜大学教授 バソコン 慶應義塾普通部教諭 山口大学教育学部附屬光中学校教諭 京津大学客員教授 株式会社インターネット総合研究所 代表取締役所長 (敬称略・五十音順)
社会科学 東京学芸大学教育学部附属 竹早中学校教諭 茅ヶ崎市立梅田小学校校長 神戸大学教授 東京学芸大学名誉教授 筑波大学教授		荒井正剛 伊澤直志 今谷順重 佐島群己 谷川彰英	寺嶋昌 松尾健史 目賀田久 奥井智久 角屋重樹 木下邦太郎 高橋景一 藤谷立自 山口令司 横山正 有田和正 梶田徹一 加藤潔 寺本深明 影浦攻 久壁百合 樋口忠彦 松川禮子 荒川昭 神村信男 藤原洋